

第20回医学図書館研究会・継続教育コース報告

井ノ上, 俊哉
九州大学附属図書館医学図書館

<https://hdl.handle.net/2324/1905544>

出版情報 : Medical library. 61 (2), pp.145-150, 2014-06. 日本医学図書館協会
バージョン :
権利関係 :



第20回医学図書館研究会・継続教育コース報告

井ノ上俊哉*

九州大学附属図書館医学図書館

I. はじめに

2013年11月6日(水)から8日(金)まで、特定非営利活動法人日本医学図書館協会(以下、JMLA)主催、日本薬学図書館協議会(以下、JPLA)協賛により、第20回医学図書館研究会・継続教育コース(以下、研究会・継続教育コース)を開催した。会場は九州大学病院キャンパス総合研究棟のITルームとセミナー室105で、メインテーマは「変化の時代の真っ只中! ~医学図書館の未来を考える~」とした。

1997年に第4回医学図書館研究会・継続教育コースが久留米大学で開催されており、今回16年ぶりに九州・沖縄地区での開催となった。

3日間のスケジュールは、11月6日午後から7日午前までを研究会、7日午後から8日午前までを継続教育コースとした。1日目の研究会終了後に九州大学附属図書館医学図書館見学会を行い、その後、総合研究棟内のセミナー室105で交流会を開催した。

参加者は、研究会延べ38名(2日間参加29名、6日のみ2名、7日のみ7名)、継続教育コースI 36名、コースII 35名、研究会・継続教育コース3日間で合計45名であった。

II. 開催準備

2013年3月7日に準備委員会を開催した。日程は、図書館総合展の日程と重ならないよう考慮した。第19回と同様に11月上旬とし、6日から8日に決定した。全国から集まる参加者が利用する交通機関の利便性およびパソコン実習室・セミナー室・交流会場を備えた施設であることを考慮した結果、会場は福岡市内の九州大学病院キャンパス総合研究棟とした。

2013年の九州・沖縄地区会事務局および評議員館が九州大学なので、実行委員長は井ノ上(九大医)、事務

局は高原(九大医)とし、福岡市内での開催としたので会計は杉尾(福岡大医)とした。九州大学附属図書館医学図書館で実行委員会を全て開催することとした。

1. 第1回実行委員会(3月22日)

最初に各会員館1名の実行委員を推薦した。

第20回医学図書館研究会・継続教育コースのテーマについて、事前に各会員館に案を募ったが、提案館は長崎大学と九州大学のみだったので、両方で協議し、メーリングリストで継続審議とすることを確認した。また、演題が集まりやすくするためにはテーマは分野を限定しない方がよいとする方針を定めた。数日後にメーリングリストで協議した結果、第20回医学図書館研究会・継続教育コースのテーマを「変化の時代の真っ只中! 医学図書館の未来を考える。」に決定した。

継続教育コースの講演・講習の企画(案)および講師の推薦についても事前に各会員館に案を募っていたが、長崎大学と九州大学以外の会員館からは提案がなかった。

継続教育コースIは、講演2コマを予定した。1コマは、九州大学大学院ライブラリーサイエンス専攻の大学院生と九州大学附属図書館職員を対象に行われた講演「高等教育の電子教材における他人の著作物の利用と問題点」を医学図書館職員向けの内容にアレンジしていただくよう、九州大学附属図書館の吉田素文副館長に打診し、内諾を得た。

継続教育コースIのもう1コマは、提案館2館で協議し、メーリングリストで継続審議することとした。当初、「医学図書館のアウトソーシング」の内容で検討していたが、講師適任者が見つからなかったため断念した。

九州大学では2011年から講習会担当の図書館職員を対象にインストラクショナルデザイン(教授設計学)の考え方を取り入れた職員研修を実施していたので、新たな企画案として医学図書館職員向けのインストラクショナルデザインワークショップを検討した。九州大学以外の会員館大学から講師候補者を探して打診したところ、

*Toshiya INOUE: 〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出3-1-1.
Tel.092-642-6034 Fax.092-642-6041
inoue.toshiya.248@m.kyushu-u.ac.jp (2014年3月14日 受理)

産業医科大学の柴田喜幸准教授から内諾を得た。

継続教育コースⅡは、パソコン実習室での文献検索実習とし、内容のレベルは、「JMLA文献検索医中誌Web・PubMed講習会ガイドライン」のアドバンストであることを確認した後、講師の推薦を検討した。しかし、九州・沖縄地区会会員館に講師適任者が見つからなかったため、他の地区会会員館に依頼することとした。講師を業者に依頼してもよいのではないかと意見もあった。

後日、複数の候補者ならびに複数の代理店業者の中から講師適任者を検討した結果、PubMed講習会の講師を東京慈恵会医科大学の阿部信一氏に、医中誌Web講習会の講師を株式会社サンメディアに依頼することに決定した。

2. 第2回実行委員会（4月26日）

最初に予算（暫定案）を審議・承認した。5月のJMLA総会でのJMLA2013年予算承認後に改めて予算（案）を審議することとした。

『医学図書館』60巻2号（2013年6月）に掲載する第1報研究会演題募集（案）および参加申込書（案）を審議・了承した。

会議終了後、研究会・継続教育コースおよび交流会の会場を下見し、設備を確認した。

3. 第3回実行委員会（8月27日）

研究会演題申込締切日（7月19日）時点で応募が4題しかなかったため、演題募集を8月2日まで延長し、教育・研究委員会の加藤副委員長に協力を依頼した。また、7月24日から26日までNII学術情報ウェブサービス担当者研修が九州大学を会場にして開催されたため、研修受講者のうち、医療系の図書館職員に演題を出していただくよう依頼した。

8月2日時点でも応募が6題という状況だったので、九州・沖縄地区の会員館および九州地区医学図書館協議会加盟館に演題募集を通知したほか、申込期限を8月23日までに再延長し、中央事務局から主任司書宛てにメールにて追加募集を行った。最終締切日までに計8題の演題が集まり、研究会発表者および継続教育コース講師に要旨作成を依頼して研究会プログラムの形がようやく整った。

第20回医学図書館研究会・継続教育コース開催参加者募集要項（第2報）、参加申込書、請求書（案）、プログラム（案）を作成した。第3回実行委員会を電子メールによる書面回議にて開催し、これらを承認した。

4. 第4回実行委員会（10月1日）

電子メールによる書面回議にて開催し、プログラム・予稿集、講師打合せ事項、研究会発表に関する確認事項、参加者および請求書について確認し、これらを承認した。9月30日時点で30名の参加申込があった。

5. 第5回実行委員会（10月24日）

参加証明書・継続教育コース修了証書発行名簿を確認し、受講者アンケートは前回と同じ形式・設問にした。研究会発表者および継続教育コース講師の使用機器、資料の公開可否等について確認し、九州大学病院キャンパス入口から会場となる建物および部屋までのサイン、参加者への注意事項について不備の有無を点検した。その他、交流会のメニューを決定した。

6. 第6回実行委員会（11月19日）

研究会・継続教育コース終了後に電子メールによる書面回議にて開催し、収支決算書、参加人数等最終報告書、受講者アンケート集計結果について確認した。これをもって最終回とした。

Ⅲ. 研究会

8題の演題のうち、半数の4題が学習支援・教育支援、1題が学術雑誌、2題が閲覧、1題が文献複写の内容であった。発表者の中には1日目のみの参加者がいるかもしれないことを考慮した結果、発表者を九州地区とその他に分け、九州地区の3題は2日目に、その他の5題は1日目にした。また、学習支援・教育支援の4題は九州地区とその他が2題ずつだったので、2日間に渡って類似の演題が連続するように九州地区の2題を2日目の前半に、その他の2題を1日目の後半とするプログラムにした。

学習支援・教育支援については参加者の関心が特に高く、質疑応答の時間においても質問や情報交換が活発に行われた。実行委員会の思惑どおり研究会の中では最も充実した時間になった。

主に中堅クラスの医療系図書館職員が参加する研究会なので、司会進行を担当いただくモデレータについては、ヘルスサイエンス情報専門員中級資格者または経験年数15年以上の参加者の中から引き受けてくださりそうな方に依頼し、了承いただいた。質問が出にくい演題の際は、モデレータから興味・関心の観点を示し、発言の喚起や進行を円滑に行っていたので大いに助けられた。



図1. 研究会

IV. 継続教育コース

1. 継続教育コース1

前半は、「図書館職員のためのインストラクショナル・デザイン活用ワークショップ」として産業医科大学の柴田喜幸准教授に講演いただいた。教授設計学というこれまで図書館職員があまり意識したことがなかった考え方をワークショップ形式でおもしろく、わかりやすく解説していただいた。

“講習会の計画作成の際に参考になる効果的な方法とコツを学んだので、自館で講習会、セミナー等を行う自信がついた”等の感想が、参加者のアンケートに寄せられていた。

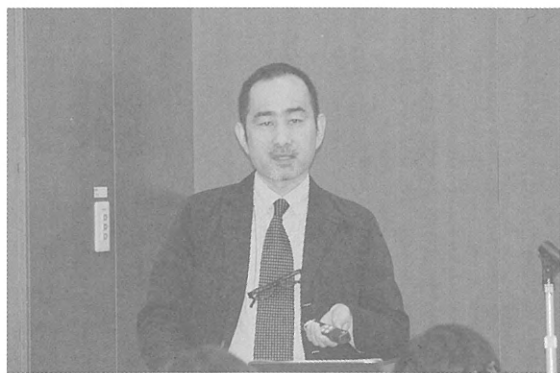


図2. 継続教育1 (柴田講師)

後半は、九州大学附属図書館の吉田素文副館長に「医学・医療系の電子教材作成支援活動における課題と対策」として、大学をはじめとする高等教育における電子教材開発において、焦眉の課題となっている著作権問題について講演いただいた。教育資源の情報共有という学習支援にも関わる課題と実状について、詳細にご説明いただいた。

電子教材の著作権については、初めて学ぶ参加者も多く、“興味深い内容で勉強になった”との感想がアンケートに多く見られた。



図3. 継続教育1 (吉田講師)

2. 継続教育コース2

「文献検索演習 中級編 PubMedと医中誌」のPubMedは、東京慈恵会医科大学学術情報センターの阿部信一氏、医中誌Webは株式会社サンメディアの大塩稔氏に解説・指導いただいた。

「文献検索演習 基礎編」で学んだ実習内容の要点を復習した後、MeSH・医中誌シソーラスを活用した検索事例を中心とした演習を行った。スクリーンの講師画面遷移と同時に参加者各自が手元のパソコンを操作しながら指導内容を熱心に修得していた様子から、継続教育コースでの文献検索演習の要望が多いことを改めて実感した。

特に阿部氏によるPubMedの文献検索演習は、データベース機能の説明・使い方のみに止まらず、日常業務として利用者から参考質問を受けている医学図書館職員の立場から「疑問のカテゴリー」分析を行う等、参加者によるアンケートの感想は好評であった。



図4. 継続教育2 (文献検索演習)

V. 見学会

6日の研究会終了後、交流会までの間の時間を利用して九州大学附属図書館医学図書館の見学会を行った。築30年以上の建物で、特に目新しい施設等がない図書館であるが、24時間開館や81台のパソコンを備えた情報サロンに参加者は関心を示していた。

また、医学・生物学系の外国雑誌センター館としてレアジャーナルを中心としたプリント版の外国雑誌を大量に整備・所蔵していることが、電子ジャーナルが標準となった昨今では、強く印象に残ったようである。

当日は、九州大学医学部の創設期に在籍された宮入慶之助教授が日本住血吸虫症の感染経路を明らかにして百年になることを記念して、「日本住血吸虫中間宿主発見百周年記念展」を宮入慶之助記念館との共催で開催中だったので、参加者にも見ていただいた。また、宮入慶之助記念館作成の記念ボールペンを研究会・継続教育コース参加者全員に配布した。

VI. 交流会

研究会・継続教育コースの会場である総合研究棟には1階にサイエンスカフェと九州大学生協の食堂があるので、参加者の移動と飲食物運搬の負担軽減を考慮してサイエンスカフェで交流会を行うことを予定していた。

しかし、交流会参加者数がサイエンスカフェの収容定員を超えたので、隣室のセミナー室105に会場を変更して開催した。

研究会の発表者に詳細に尋ねてみたいことや自館の状況との比較等の話で盛り上がり、参加者同士の情報交換の場としても有意義な時間となった。継続教育コースと同じ日ではなかったために、講師の先生方が参加いただけなかったことが反省点となった。

VII. アンケート調査

参加者45名にアンケート調査への協力を依頼したところ、37名から回答があり、回収率は82.2%であった。

「大変参考になった」「参考になった」を合わせた回答は、研究会と継続教育1が100%、継続教育2が98%で好評であった。

開催時期については約2割に相当する7名から変更希望があった。業務の閑散期である夏季の開催希望や、業務繁忙期である秋を避けたいとする雑誌業務担当者からのコメントがあった。

国立情報学研究所（NII）の短期研修の日程と重なってしまったが、研究会・継続教育コースの会場を約1年前に予約しておく必要があったので、やむを得なかった。

VIII. 終わりに

1997年に九州・沖縄地区会が担当した第4回医学図書館研究会・継続教育コースに参加した職員が、現在の地区会会員館には在籍しておらず、当時の実行委員会による記録書類も保存されていなかったため、準備の全てを手探り状態から開始した。

しかし、実施マニュアルや前回の実行委員会による記録資料が参考になったほか、中央事務局および教育・研究委員会の皆様に問い合わせや相談に随時対応、ご指導いただいたおかげで無事開催することができた。

また、西の端にある九州まで遠方から参加してくださるか不安だったが、45名の参加者があり安堵した。

最終日に来福され、修了証書授与および閉会の挨拶を賜った坪内専務理事、準備が難航した際にご助力いただいた中央事務局の木村局長、宇佐見氏、教育・研究委員会の加藤副委員長には、たいへんお世話になったことに御礼申し上げる。

最後に、参加者および講師の皆様の実行委員一同深く感謝申し上げます。

第20回医学図書館研究会・継続教育コース アンケートまとめ 回答数：37

参加者の所属 (平均経験年数)

大学	平均経験年数	病院	平均経験年数	企業	平均経験年数	他	平均経験年数
31	9.8	5	9.9	0	0	5	4.8

開催時期

このまま	変更	希望月	無回答
29	7	7～8月, 9月, 11月初め	1

開催期間

このまま	変更	何日間	無回答
33	3	2日間 (2人), 1日間 (1人)	1

参加コース

研究会	CE 1	CE 2
32	33	30

研究会の発表時間 (20分)

よい	短すぎる	長すぎる	他
28	3	1	0

<研究会>参考になったか

大変	参考になった	普通	あまり	他
25	7	0	0	0

<継続教育1>参考になったか

大変	参考になった	普通	あまり	他
22	11	0	0	0

<継続教育2:文献検索演習>参考になったか

大変	参考になった	普通	あまり	他
16	7	0	1	0

図書館見学会

<見学会>今後について

参加	不参加	是非続けてほしい	どちらでもよい	無くてもよい	他
28	8	28	2	0	0

図書館見学時間 (30分)

短い	少し短い	ピッタリ	少し長い	長い
0	7	18	2	1

<研究会> 今後参加したいテーマ

- ◆ 講習会などイベントの企画, 集客
- ◆ 事例報告に加え, 研究の話もききたい
- ◆ レファレンス
- ◆ アクティブ・ラーニングと図書館, 学生との協働
- ◆ ガイドンスの実施例の紹介は今後も続けていただきたい
- ◆ 患者図書館について聞きたい
- ◆ ガイドンスの事例報告があれば面白いと思いました
- ◆ フリーのDBやOAの論文など, 環境を問わない検索の需要が高いように思います。視野に入れておくべきとは思いますが, どんな有用なものがあるのか, 情報を集めきれないことも多く, そうした情報を共有できる場があればいいと思います。
- ◆ 機関リポジトリ

<継続教育コース> 今後参加したいテーマ

- ◆ 医療系図書館におけるアクティブ・ラーニングに関するテーマ
- ◆ ガイドライン, EBM
- ◆ EBM関係
- ◆ レファレンス
- ◆ 各種のData baseの使い方や, どんなときに使うとよいかを扱ってほしい
- ◆ EBMセミナーのようなもの, 医中誌・PubMed上級, Up to Date
- ◆ 著作権関連について, 診療ガイドライン作成について, EBMについて
- ◆ EBMについて
- ◆ PubMed講習も今後も続けていただきたい
- ◆ 著作権について
- ◆ 医中誌, PubMed, 検索方法, 著作権について
- ◆ ワークショップ形式の講習会はわかりやすかった
- ◆ 文献検索

第20回医学図書館研究会・継続教育コースプログラム
全体テーマ「変化の時代の真っ只中！～医学図書館の
未来を考える～」

1. 医学図書館研究会

◆11月6日（水）

九州大学病院キャンパス総合研究棟2階ITルーム

12:30～ 開場・受付

13:00～ 開会

13:20～15:50 発表1

モデレータ：浅野泉（旭川医科大学図書館）

タイムキーパー：國見裕美（徳島大学附

属図書館）

13:20～13:40

1. 学術雑誌ビジネスの動向2013

田口宣行（埼玉医科大学附属図書館）

13:40～14:00

2. 中・長期計画の検証：アウトカムの評価方法確立に向けて

小林晴子，坪内政義（愛知医科大学医学情報センター図
書館）

14:00～14:20 質疑・自由討論

14:20～14:30 休憩

14:30～14:50

3. 資料と利用者の位置情報を利用したナビゲーションの可能性

橋本郷史（東邦大学医学メディアセンター）

14:50～15:10

4. 図書館の学習支援と教員との連携

山下桂（東京女子医科大学図書館大東分室）

15:10～15:30

5. 隠れたニーズを発見する～京都大学医学図書館の秘書向け

講習会および看護師／コ・メディカル向け講習会について～
八木澤ちひろ（京都大学医学図書館）

15:30～15:50 質疑・自由討論

16:30～17:00 九州大学附属図書館医学図書館見学会

展示会：日本住血吸虫中間宿主発見 百周年記念展

17:30～19:30 交流会：九州大学病院キャンパス総合研
究棟1階セミナー室105

◆11月7日（木）

9:30 開場・受付

10:00～11:30 発表2

モデレータ：中瀬範子（大阪市立大学学
術情報総合センター医学分館）

タイムキーパー：藤村三枝（滋賀医科大
学附属図書館）

10:00～10:20

6. 認定看護師教育課程で行った文献検索講習の事例

水江愛子，阿部佐和子（福岡大学図書館医学部分館）

10:20～10:40

7. 講習会を超える！～九州大学附属図書館医学図書館に
おける利用者支援のこれまでとこれから～

梶原瑠衣，宮嶋舞美，塩田麻実（九州大学附属図書館医
学図書館）

10:40～11:00

8. ILL依頼データから見た長崎大学附属図書館医学分館に
おける文献の需要

松村悠子（長崎大学附属図書館医学分館）

11:00～11:10 休憩

11:10～11:30 質疑・自由討論

11:30～11:45 参加証授与・閉会

2. 継続教育コース

◆11月7日（木）

九州大学病院キャンパス総合研究棟1階セミナー室105

コース1

13:00 受付

13:30～15:00

演題：「図書館職員のためのインストラクショナル・デザイ
ン活用ワークショップ」

講師：柴田喜幸（産業医科大学産業医実務研修センター准教授）

15:00～15:15 休憩

15:15～16:45

演題：「医学・医療系の電子教材作成支援活動における課題
と対策」

講師：吉田素文（九州大学附属図書館副館長・九州大学大
学院医学研究院医学教育学教授）

16:45～ 修了証書授与

◆11月8日（金）

九州大学病院キャンパス総合研究棟2階ITルーム

コース2 文献検索演習 中級編 「PubMedと医中誌Web」

9:00 受付

9:30～11:00 PubMed：

講師：阿部信一（東京慈恵会医科大学学術情報センター）

11:00～11:15 休憩

11:15～12:45 医中誌Webの効果的利用：

講師：大塩稔（株式会社サンメディア インデキシング&
データベースサーチ）

12:45～13:00 修了証書授与・閉会

第20回実行委員会

井ノ上俊哉 九州大学附属図書館医学図書館：委員長

杉尾 千草 福岡大学図書館医学部分館：会計

高原 秀典 九州大学附属図書館医学図書館：事務局

坂本 築夫 久留米大学医学図書館

志波原智美 長崎大学附属図書館医学分館

堀口 裕著 鹿児島大学附属図書館桜ヶ丘分館

田尻 千浪 産業医科大学図書館

長 紀美恵 九州歯科大学附属図書館